

令和7年度 第1回丹波市「トライやる・ウィーク」推進協議会（会議録）

- ◇開会 令和7年5月29日（木）午前1時30分
- ◇閉会 令和7年5月29日（木）午後2時45分
- ◇会場 山南住民センター 1F 学習室B
- ◇出席者 ・推進協議会委員 吉竹主税（会長）、湊上智帆、平瀬憲利、荻野幸子、
数元康治、清水邦泰、多次建策、荻野幸広、
薦木伸一郎
・事務局 片山則昭（教育長）、小森真一（学校教育課長）、
小玉文奈（学校教育課主査）、
酒井陽祐（学校教育課指導主事）

（以上13名）

発言者	内 容
	1 開会 2 教育長挨拶 3 委員の委嘱 4 委員の紹介（所属等自己紹介） 5 令和6年度の取組について（報告） 6 討議内容 （1）実施の概要について 令和7年度市内各中学校及び校区推進委員会の取組状況 （2）質疑、意見交換等
吉竹会長	令和6年度の取り組みについて、大変丁寧に、報告をしていただきました。令和7年度の市内の各中学校、そして、校区推進委員会の取組状況についても、あわせて報告をいただきました。よって、「6 討議内容」（1）も説明をしていただきましたので、令和6年度の取組、そして、令和7年度の取組について、今からいろいろご意見をいただきたいと思います。 せっかくの機会ですので、本日この会にご出席をいただきました委員の皆様に、できれば一言ずつでも、ご意見をいただきたいと思いますので、限られた時間ではございますが、どうかご協力をいただきますように、よろしくお願いします。 それでは、今事務局の方から報告・説明がありました取組の実態とか、新年度に向けての取組について、まず最初に何かご質問等がございましたらお受けしたいと思います。
湊上委員	毎年、トライやる・ウィークの実施は、準備からすごく大変な中で、今回も実施していただいて本当に感謝いたします。私の子どもも今年中学2年生で、トライやる・ウィークに参加させていただきます。すごく楽しみにしております。

吉竹会長	報告にも書かれていますとおり、中2の子どもたちはとても思春期で、事業所様とも受け入れに対して、難しい時期ですが、事業者様からの子どもたちに、何か求めるものみたいなものがあったら教えていただきたいです。
多次委員	事業所の方が、こういうふうに望んでおられることがございましたら。 事業所サイドとして、やはり、なぜ受け入れるのかと。将来、丹波市に残って働いてもらいたい、この地域を背負って支えてもらいたいというところが、すぐには言いませんが、そういった側面があります。 事業所をもっと知っていただきたいという取組に関しては、今週末、高校の事業所体験会もありますし、商工会の青年部さんの方もそういった取組をされておられます。非常に人手不足というのが深刻な状態になっておりますので、若いうちからどんな仕事をしているのか。特に、大きい会社さんは、取組に対していろんな周知方法があるので、会社名知られているのですが、地元の企業さんに関しては、やはり近くにあっても名前を知らないとか、どんなものを作っている、どんなサービスを提供してるのかってのを知らないということもありますので、知っていただきたいという思いで、取組・受け入れをされておられます。 中学生にして欲しいことについては、よく聞かれますのは、最低限のマナーを身につけておいて来ていただきたいというのがあります。JCさんの研修を受けられるのは、まさに、その一端だとは思いますが、この件については、中学生ということで、まだ社会に出てないってところもありまして、100%を求めるのは難しいんです。大人と一緒に働くということは、高校を卒業してから働くというふうに考えると、そんなに先の話ではないので、こういったものだよということを勉強していただきたいということを提供するところです。その中で、飛び込んでいくにあたって身につけておいてもらいたいことは、共通言語でしゃべることです。そこは、求められてるところが多いと感じます。 あと、5日間受け入れについては、やはり負担はすごく大きいです。そこまでしても来ていただきたいという事業所さんもあれば、3日間とか、どうしても平日にお休みをとるサービスの事業者さんもあり、その休みの日に受け入れができないっていう側面もありますので、その辺り、少し柔軟性を持たしていただければ、もう少し違ったこともできるんだという話も聞いております。
吉竹会長	大変貴重なご意見をいただきました。間もなく、来週の月曜日から始まるわけですが、例年トライやる・ウィークの実施の前に、学校で基本的にこういうことが大事だよとか、こういうことに気をつけて頑張ろうというような指導をされて送り出されると思うんですが、その辺りのところはどうか。
荻野幸子	まず、マナーに関しては、市内の中学校も、青年会議所の方に来ていただいて、1時間

委員	か2時間マナー講習会という形で、例年させてもらっています。 それ以外にも、自分たちで目標を考えさせて、今年のテーマはこれで、具体的にはこんなふうにして接していこうという目標を、生徒の実行委員会で立てています。例えば、挨拶はこういうふうにしようとか、コミュニケーションを大切にしていこうとか、教員から言うのではなく、自分たちでこういうことをしていけないといけないっていうようなことを考える機会を作って取り組んでいます。 しかし、正直なところ、マナー講習会とかしていただいたときには、対応を守らないといけないなと思っているのですが、少し日が経つと、だんだん言葉遣いが元に戻っていくこととか心配はしております。 アポイントメントの取り方や電話の対応の仕方について、例えば、昨年度までは本校では一言一句書いて対応させていたのですが、自分たちで考えて、それも経験して、失敗しても一生懸命やれば、事業所の方も、わかってくださるんじゃないかということで、青年会議所の方の講習を受けて、じゃあ自分たちでどんなふうに言えばいいのかというようなことも考えさせて、電話させたりとか、いうようなこともさせてもらいました。
平瀬委員	どの学校も同じような取組をしていると思います。学校のスタートとしては、1年生のときに、地元の企業を調べるなど仕事調べということで、こちら側に目を向けるというようなスタートであると思っています。その後、順番に進め、2年生になって、本当にこの短期間ではありますが、マナー講習会や意識づけという形で、事業を進めています。なかなか思い通りに成長するところには繋がらない部分はあるのですが、ただ、子ども一人一人のレベルに応じてちょっとずつは前進しているのかなあというのは、いろんな取組の中では感じています。
吉竹会長	今、学校の方から事前指導のことについて説明をいただきました。先ほど、多次さんの方からもお話がありましたが、みんながわかる、基本ルール、いわゆるコミュニケーションが大事だ、挨拶ということも含めてだと思えます。それが学校での指導だけではなくて家庭での生活とか、いろんな場所での関わりが大事になってくると思えます。その辺りのところで、何かお考えがございますか。
荻野幸広 委員	先ほど紹介いただいたマナー講習で、各中学校を回らさせていただきました。 挨拶の重要性を、どういうふうに子どもたちに伝えれば伝わるかなあというところで、この会としての事業の方も構築のほうをさせていただいております。中学生が僕たちに、自ら考えてどういった行動するかっていうのがとても重要なといったところで、どういうふうに子どもたちに伝えれば、より効果的に分かるのか、普段勉強で習っていることが、企業とか、実生活の中で、どういうふうに役に立つのか、しっかり結びつけてあげたいなあというふうに思って実施させていただいております。各中学校の方にも、打ち合わせをさせていただき、この中学校は挨拶、この中学校は言葉、ここはテレアポといったように、様々求められていることがありましたので、それに合わせて、短い時間では

	ありましたが、実施させてもらいました。どこの中学校にも共通して言えるのが、挨拶の重要性で、普段挨拶しなさいと伝えてはいるが、何で挨拶って大切なのかっていうところまでは、全員が全員理解していないと感じています。僕たちが中学生の視野に立って、分かりやすく、誰でもできるのが挨拶ですと伝えていきます。企業に勤めると勉強しないと得ることができない免許や技術、そういうものは、会社の中で勉強して覚えていくことなんですけど、今、皆さんができる、すぐにできる取組としては、挨拶があること。挨拶をすることで、仕事のコミュニケーションの入口であったり、いろんな方からいろんなチャンスをいただいたりするんだよと。ただ、コミュニケーションだけではなく、それがどういうふうに繋がり、自分にどういう学びがあって、そして、自分にどんなチャンスが回ってくるか、これが全て挨拶に携わってきますというふうに説明をしています。 思春期ということで心配はしてたんですけど、僕たち大人が思ってる以上に、しっかり発言もされますし、聞いている方も多くいました。事後アンケートの方も取らせていただきましたが、「トライやる・ウィークに前向きに実施します」と、また「挨拶が大切なことがわかったので、勉強になりました」というような回答が8割から9割の方からいただけたので、また各中学校の方に、アンケート結果の方をお渡しできたらなと思っています。
吉竹会長	大変貴重な意見をいただいて参考になるところがたくさんあったんですけども、先ほども言いましたように、家庭での関わりというようなことも含めて、或いは、全市同じ時期に中学校2年生が、学校ではなくていろんな事業所に散らばるっていうか、そこへ行って、そして、いろんな活動をしていきます。その土壌となる地域は、普段は通学路を歩いて学校へ行っていますけども、全く違うところを歩いて自転車で、どんな服装で行くのかな。体操服で行ったり、いろんな仕事に合わせたような服装で行ったりするわけなんですけども、よく、私も自治会の役をしておりましたときに、「中2が来週からトライやる・ウィークなので、少し違った時間に、違う場所を通ったときに声かけをしましょう」というようなことを呼びかけたことがあるんですが、そういう意味では、地区で応援をしていく。地区全体で、町全体で、市全体で応援をしていくということも大事なかなあというふうに思うんですけども、今日は、自治会の方からも来ていただいておりますけども、その辺りについての、ご意見とかお考えがありましたら。
清水委員	丹波市の方の自治会長会の方の役員会も兼ねていますので、先日は、山南中学校の推進委員の会議が終わったところです。毎回、中学生がトライやる・ウィークの前に放送を入れますね。あれが非常に上手に言ってるなあというので、トライやる・ウィークが始まるんだなあということで地域の人達もわかる。そして、いろんな事業所で出会ったときに、声も掛けやすいなあというふうに思うんです。 子どもたちの成長っていう面からいくと、今、お話聞きながら思ったのは、各自治協が丹波市内25あるんです。その25は、全ての小学校区というふうになっていますので、

	中学校との結びつきが、やはり、少ないようには思います。私も今、中学校の方のトライやる・ウィークの推進委員会に入って中学校の動きを知るんですけども、教育委員会の方でやっておられる学校運営協議会が、今、全中学校にもできたんですよ。小学校の方はもう昔からありまして、学校との結びつきが非常に強い。中学校の結びつきはどうしてもその代表の代表というふうになりますので、地域との繋がりという点では、ちょっと小学校と中学校は違うと思うんですけども、今日お話を聞きながら、やはり中学校と各「まち協」との繋がりも強くしていくと、さらによくなるのではないかなと。 先ほど事務局から紹介していただいたように、地域と各企業さんとかお店とかの繋がり強いので、地域を頼っていただくということも大事だなと思いました。 山南中学校の校長先生にもよく声をかけていただきますが、そうやって繋がっていくことが、やはり、子どもたちを応援する一助にもなると思いますので、できるだけ地域の自治会長さんにも声掛けもしていきたいなと思っています。また、丹波市全体の役員の方にも、今日のこの会を繋いでいきたいなと思っています。
吉竹会長	青少年本部の方から数元さんにも来ていただいておりますけども、地域で応援していく、子どもたちを守っていく、そういうようなご意見も今伺いましたけども、数元さんの方から何かご意見、お考えがございましたら、お願いします。
数元委員	去年のサンプルですか、反省文を読ましていただいた中で、やはり、挨拶は大事だなと。最初の1日、2日は挨拶をできなかったけど、やっぱり、できるようになりましたということがほとんど書いてありましたね。 それと、これで仕事を見て、お父さんをととても尊敬したという話もありました。こんな重たいものをどうやって持っていたかなという感想もありましたし、皆さんが、どれほど苦労して仕事しているのかということで、尊敬の念がたくさん書いてありました。 基本は、やはり子どもたちは、実践すれば、思うことに違いがあるんだなということだと思います。
吉竹会長	それぞれの所属の立場で、いろいろなご意見、お考えを伺いました。薦木さん何かご意見ございますか。
薦木委員	私は本当に、今年からこちらの推進協議会の方に入らしてもらったので、本当に勉強させていただきたいなと思って参加させていただいております。先ほど紹介した市民プラザの市民活動支援センターでも、氷上中学校の生徒さんを毎年受け入れさせていただいております。 先週、中学生が事前の訪問にいらっしやいまして、女の子4名だったかな。1日だけ5名になるということで、私じゃない別の担当者が挨拶してる姿を見てたんですが、皆さん第一印象は、本当に真面目だなあというところで、マナー講習とか事前指導がなされ、若干緊張もしながらお越しになってるんだなあと思いました。

我々、施設のコンセプトとして、どちらかというと市民活動をする、地域づくりの活動ですね。自治会さんと市長さんもいらっしゃいますが、そういった活動を、応援するための情報拠点として、施設を運営してるってこともあって、結構フロアの中でいろんな企画を開催しています。

そのため、中学生が来られたときは毎回、何か中学生に考えてもらおうということで、自分たちが、もし、主催者側になったときにどんな企画だったら来てみたいと思うかということにチャレンジしてもらっています。我々としては、是非是非むしろ失敗して欲しいなと思っていて、普段学校ではできないチャレンジをですね、我々の施設やっていたいて、何かその中から何か新しい発見とか、こんな仕事もあるんだなというふうに思ってもらえたらなと思っています。

そういった意味で言うと、事業所の数をふやしていくことが課題とか、先生たちも、資料を見たら結構事前の調整大変負担感があるということで、今回は、土曜日に先生がいらっしゃってね、これはお仕事なんだろうかとあって、ちょっと、先生たちも大変やなあと思いました。

そういった意味では、私、社会教育士という立場をしています。これは、いわゆる学びを通して人と人を繋ぐとか、学びを通して地域の活動を支援するなど、そういったコーディネート役みたいな形です。まさにそういった地域での、地域とその学校を繋ぐ、まさにトライやる・ウィークであれば、企業さんと学校を繋いでいく。そういったコーディネーターみたいな存在も大事になってくるのかなと思います。コミュニティスクールに学校が取り組んでるし、地域学校協働活動は盛んなところでは推進員さんもいらっしゃるというふうに聞いています。そういった方が、これから、トライやる・ウィークでも活躍できることがテーマの1つなのかなあと思っています。私のようにこういう、社会教育の立場で取り組んでる人間からすると、是非コーディネーターとして、何かご協力できたらいいなあというふうな思いをしています。

その5日間は、やはり企業さんも大変で、我々も結構大変で、タイミングがあって、もうちょっと、あと1週間ずれたらちょうどイベントが重なるのにとかもあったりします。そういう意味では、コーディネーターさんが、うまくそこを何かコーディネートすることによって、もしかしたら、5日間同じ場所じゃなくても、違う場所になるかもしれないけど、子どもたちにとっては何か普段では得られない体験をできるような、そういう事業所だったり、そういう活動されてる人をつなぐことができるかなと思いました。

でも、トライやる・ウィークの実施要項とか見ると、結構幅広い活動ができる。職業体験だけじゃないかなと思っていたのですが、地域活動とかボランティア活動もあるし、あと、丹波市の場合は、結構私も身近な人が多いです。移住者なので、自分で仕事を起こしてる人とか、個人事業で何かされてるみたいの方、そういった方も多い丹波市っていうのは1つの魅力かなと思うので、もちろん企業に勤めることも仕事の1つの選択肢だと思うんですが、自分で何かを起こしたりとか、何でそういうことをやってるのかみたいな人と出会ってお話いただくことも、丹波でもこんなことできるんだと思ってもらえるきっかけになるのかな、と思って感じています。例えば、このコーディネーターの役

吉竹会長	割ってのは、ますますこれから重要なあとと感じました。 予定の時間が近づいていますが、今回は、推進協議会ということで、市の会議になるわけですが、実際、校区推進委員会の方でいろいろ具体的な準備をしていただいたり、或いは、取り組みも進めてもらっているという形になっております。 来週の月曜日からトライやる・ウィークが始まって、1週間のいろいろ経過の中で、それぞれの、学校といいたしましょうか、校区推進委員会で、こういうようなことがあったなあと。或いは、来年度こういうことを修正したり、検討したりしていく必要があるなというようなことがございましたら、2回目の会で、事務局の方でも取りまとめていただき示していただいて、そして、この市の協議会で、いろいろお考え、知恵を出し合って、そして、次年度に、是非繋いでいっていただきたいなあとというふうに思っております。 いずれにしても、このトライやる・ウィーク 28年目ということをご報告しました。もう30年になります。県の事業で、こんなに長く続く事業は、あまりないんじゃないかなあとというふうに思っておりますし、聞いたこともございません。それだけに、非常に意義のある1回目、このトライやるに行った生徒さんはもう43、44ぐらいですかね。もう中年になっています。その人たちは、きっと、中学校2年生のときの2週間が、口では説明できないだろうけども、何かこうプラスになっている。そういうことを信じて、28年間この事業が進んできたように思います。 先ほど、清水さんの方から、地域を頼ってください、或いは、応援をしていますという言葉もお聞きをしましたし、事業所の方も、受け入れについても、いろいろな前向きなご発言をいただきました。ただ、1週間やっていくと、さっきも言ったように、いろんな課題が出てくるとは思いますけども、その課題を整理しながら、次につなげていけたらなというふうに思っております。 来週月曜日からトライやる・ウィークが、事故なく全員無事に、5日間の取組が経験できることを願って、今日の協議会の討議は終わりたいと思います。 うまく進行ができませんで申し訳なかったですけども、2回目も計画をされているようですので、またその際には、よろしく願いしたいと思います。それでは事務局の方へお返しをします。
酒井	7 閉会 吉竹様、本当に会議の進行、どうもありがとうございました。 皆様も貴重な意見、どうもありがとうございました。 閉会に先立ちまして、お手元のチラシがあると思うんですが、実はそのチラシは、昨年度の第2回の協議会のときに、学校・地域・家庭の三者連携を深めるためにも、もっともっと地域の方々に、トライやる・ウィークの目的やねらい、あり方を発信していく必要があるというお声をいただいて、作成しました。丹波市のホームページや各学校担当者を通しての地域への配布等、いろいろと考えています。もっと地域の方々への周知を図りたいと考えていますので、どうぞご理解よろしくお願いします。

	それでは、皆様のご協力により、無事全日程を終了することができました。厚く御礼申し上げます。 なお、先ほど吉竹会長からもありましたが、第2回の協議会を12月ごろに開催させていただく予定です。開催が近づきましたら、ご案内いたしますので、どうぞ、お忙しいと思いますがご参加よろしく申し上げます。 以上をもちまして令和7年度第1回丹波市トライやる・ウィーク推進協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。
--	---